

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第 2660 地区)

WEEKLY BULLETIN

No.26

東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日
例会日 毎週月曜日 12:30~
例会場所 シェラトン都ホテル大阪3F
事務局 東大阪市小阪本町1丁目5-14
〒577-0802 小阪本町ロイヤルハイツ 405号
TEL: 06-6753-8823
FAX: 06-6753-8826
E-mail: jaherc@gmail.com



会長 金子 勝 信
会長ノミニー 佐井 義 昌
副会長 岡本 慎 一
幹事 尾崎 元
会報委員長 尾崎 元

BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

第 2115 回例会 平成 31 年 4 月 8 日 (月曜日) 第 26 号

本日の例会 4月8日(月) 第2例会

- ソング 『4つのテスト』
- 卓話 バズセッション
- 本日の献立 軽食カレー

次回の例会 4月22日(月) 第3例会

- 卓話 『コーヒーと健康』
- 担当 尾崎 元会員
- 本日の献立 軽食ワンプレート

前回の例会 4月1日(月) 第1例会

- ビジター 大阪南RC 山本博史バガナー

会長挨拶 会長 金子 勝信

本日は、月初めの夜例会です。

先週の土曜日は、春の家族会で『なばなの里』へ行ってきました。バスをチャーターして総勢22名で、美味しい食事をいただき、アウトレット温泉、そして光のイルミネーションを楽しんでまいりました。天候には恵まれませんでした。が、会員、ご家族それぞれ良い思い出になったと思います。今回の旅を企画し、そしてツアーコンダクターとしてご活躍いただきました小川親睦委員長本当に有難うございました。

さて、本日もお昼前に、国民が注目する中で、5月1日より改元される新元号『令和』が発表されました。英語では、REIWAとなるとのこと。新元号『令和』の出典は、日本最古の和歌集である万葉集からとのこと。由来となった文は、大伴家持の父・大伴旅人が、天平2(730)年の正月に開いた宴会の情景を記したもの。この宴会で、参会者たちは梅の花にまつわる32首の和歌を詠んだとされています。人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められているそうです。

新元号が発表された瞬間から、印鑑業者やカレン

ダー製作者が対応におわれ、REIWAとついたドメインが取り合いになったりと、早くも騒々しくなっておりますが、新たな時代の幕開けが素晴らしいものとなることを切に願い、ご挨拶とさせていただきます。

幹事報告 幹事 尾崎 元

- 4月11日(木)に献血活動を近鉄布施駅北口ロータリーにて行います。本日ポストにも配布しておりますがご家族、ご友人、社員の方々にもお声がけいただきまして多数の動員をお願い致します。

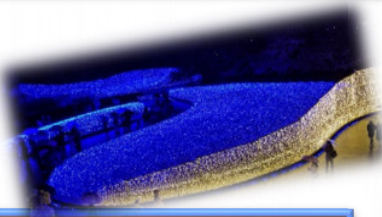
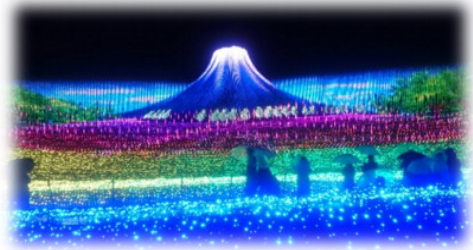
出席報告 小川 委員長

本日の会員数	18名
本日の出席者数	13名
本日の出席規定適用免除会員	11名
本日の出席率	81.25%
3月9日の修正出席率	88.24%

二コニコ箱報告 SAA 岩橋 竜介

金子会長	山本ガバナーようこそお越し下さいました。春の家族会に多数ご参加頂き誠に有難うございました。
佐藤会員	一昨日の家族会では家族6人が大変お世話になり有難うございました。お陰様で孫に春休みのサービスができました
百済会員	春の家族会お世話になりました。
小川会員	小川観光です。無事春の家族会が終わりました。これも皆様のお蔭と感謝申し上げます。
岡本慎一	4/11の献血活動宜しくお願い致します
岩橋会員	家族会欠席のお詫びと本日より大阪キリスト教短期大学の常務理事の仕事を始めました。生徒と共に入学式に参加しました。

春の家族会





ゴルフ同好会



献血の現状について

赤十字血液センター 植田 宏和様

献血とは

輸血を必要とする患者さんのために健康な人が代償を期待することなく強制を受けることなく、すすんで自分の血液を提供する行為をいいます。

人間への初めての輸血は子羊の血液を使いました

※子羊の血液を輸血

1667年にDenis(ドニ)が貧血と高熱の患者に子羊の血液を輸血。輸血副作用は激烈。4例目の患者が輸血にて死亡。その後、輸血は禁止された。

※ヒトの血液を輸血、成功

1827年Blundell(ブランデル)が10例の弛緩出血の産婦にヒトの血液を輸血、救命した。

そのころはまだ

血液型が発見されていない
抗凝固剤が開発されていない
消毒の技術がない時代であった。

血液事業と献血の沿革

1900年(M33)	ランドシュタイナー(オーストリア) ABO式血液型を発見
1919年(T8)	塩田広重が子宮出血の患者に日本で始めて輸血、救命
1930年(S5)	浜口首相が狙撃され、輸血で救命される一躍、輸血が注目される
1940年(S15)	ランドシュタイナー他 Rh式血液型を発見
1945年(S20)	枕元輸血普及(検査せず輸血)
1950年(S25)	民間血液銀行設立(GHQの助言による)
1952年(S27)	日赤で血液銀行「日本赤十字社血液銀行 東京業務所」開設
1956年(S31)	採血及び供血あっせん業取締法
1959年(S34)	「黄色い血」問題(血球少ない黄色い血漿が目立つ血)
1981年(S56)	カリニ肺炎 エイズ事件
1982年(S57)	献血手帳の供給欄が削除
1983年(S58)	北海道千歳に血漿分画センター設立
1986年(S61)	400mL献血・成分献血開始 エイズウイルスやHTLV-1抗体検査開始
1989年(H1)	C型肝炎のための検査(HCV抗体検査)を開始B型肝炎のための検査は従来のHBs抗体検査に加えてHBc抗体検査を開始
1990年(H2)	民間製薬会社による国内での有償採漿を中止

1999年(H11)	採血基準の変更(献血可能年齢69歳まで延長)全献血液に核酸増幅検査(NAT)を開始(B型肝炎・C型肝炎ウイルス、エイズウイルスに対して)
2003年(H15)	新血液法施行 法律上での売(買)血禁止
2004年(H16)	「本人確認の実施」
2006年(H18)	献血者健康被害救済制度を開始「献血カード」の導入
2007年(H19)	血小板製剤の有効期間を72時間から4日間に延長
2009年(H21)	糖尿病関連検査サービスを開始
2010年(H22)	WHO勧告「血液製剤の入手可能性、安全性及び品質を高めるべし」
2011年(H23)	採血基準の一部改正、問診票改訂(400mL献血 17歳以上、血小板献血 男性55歳以上)
2014年(H26)	献血申込書・問診票を廃止し、電子カルテの導入 核酸増幅検査(NAT)個別検査を開始 血液センターと献血者数

血液センターと献血者数



施設の概要

- ・血液センター 全国 47施設/附属 52施設
- ・ブロックセンター 7施設(北海道・宮城・東京・愛知・大阪・広島・福岡)
- ・大阪センター 1施設/附属 2施設(北大阪事業所/南大阪事業所)
- ・移動採血車 14台/全国 292台
- ・血液運搬車 30台/全国 825台
- ・献血ルーム 11施設/全国 128施設

全国 献血者数 (H29)

受付	540万人	受付	45万人
採血	473万人	採血	37万人
成分献血	132万人	成分献血	10万人
400mL献血	326万人	400mL献血	26万人
200mL献血	14万人	200mL献血	1万人
検査不合格	15.4万人	検査不合格	1.5万人
全国 供給本数 (H29)	505万本	大阪 献血者数 (H29)	
輸血用製剤		輸血用製剤	42万本